

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

# 4

APRIL  
2009

## CONTENTS

水戸室内管弦楽団 第75回定期演奏会	1~2
MCO アカデミー	2~3
『水戸室内管弦楽団と巡る ヨーロッパ音楽紀行』発刊のお知らせ	3
SELF PORTRAIT 高山三智子	3
最近の公演から	4~5
インフォメーション	6



水戸室内管弦楽団 第67回定期演奏会(2006年12月7、8、9日)から

## 水戸芸術館開館20周年・メンデルスゾーン生誕200年記念 小澤征爾 & MCO が織り成す、妖精の棲む森のファンタジー

● 4/26(日)、27(月)、28(火) 水戸室内管弦楽団 第75回定期演奏会

4月を迎え、水戸芸術館でも新年度がスタートします。今年は、水戸芸術館開館20周年、さらに水戸市市制施行120周年、水戸藩開藩400年という記念の年です。この大きな節目を迎えて開催するのが、小澤征爾音楽顧問が指揮する水戸室内管弦楽団(MCO)の第75回定期演奏会です。プログラムは、今年生誕200年という、こちらも記念すべきメンデルスゾーンの〈ピアノ協奏曲 第1番 作品25〉と劇音楽〈夏の夜の夢〉の2曲。MCO史上最大級の規模で実施するスペシャルな演奏会です。

### ファンタジー溢れるメンデルスゾーンの音楽

まず、今回の演奏曲目について、簡単にご紹介しましょう。

#### 〈夏の夜の夢〉

メンデルスゾーンは、17歳の時(1826年)に、シェイクスピアの戯曲『夏の夜の夢』を読んでインスピレーションを得て、同名の序曲を作曲しました。もとは彼が姉のファニーと共に演奏することを想定したピアノ連弾のための作品として書かれたのですが、その後、間もなく作品21として管弦楽用に編曲されました。それから17年後の1843年、プロイセン国王のフリードリヒ・ヴィルヘルム4世の依頼の1つとして、メンデルスゾーンはシェイクスピアの劇に全部で12曲の付随音楽(作品61)を作曲しました。彼はこの付随

音楽の中に、先に書いた序曲のモチーフを巧みに織り込みました。それゆえに序曲と本編の付随音楽は、作曲年の隔たりにも関わらず、見事に一体化していて、今日でもこの両曲が結合した形で演奏が行われています。今回の演奏会でもこのスタイルが踏襲されます。

序曲(作品21)は、音楽による情景描写とも言える作品です。たとえば、第1主題では、戯れ、跳ねまわる妖精たちの姿が表現されていますし、その後に見れる舞曲ではロバのいななきがオフィクレイド(低音の金管楽器。現在ではチューバで代用されます。)によって演奏されたりしています。一方、劇付随音楽(作品61)は、(1)スケルツォ(2)情景と妖精の行進曲(3)歌と女声合唱曲(4)情景(5)間奏曲(6)情景(7)夜想曲(8)情景(9)結婚行進曲(10)情景と葬送行進曲(11)ベルガマスク舞曲(12)情景と終曲、の12曲で構成されています。妖精を表す女声合唱やソプラノとメゾ・ソプラノの独唱に加えて、オーベロンやバックなどの登場人物の台詞も楽譜には記されていて、演奏にあたっては語り手も必要となります。第9曲の〈結婚行進曲〉は、あまりにも有名ですよね。

ご参考までに、シェイクスピアの戯曲について少しご紹介しましょう。ヨーロッパでは夏至の頃に聖ヨハネ祭の前夜に、妖精の力が強まり、幻想的な怪異が起こるといふ言い伝えがあるそうです。そして、この言い伝えに着想を得て創作されたのがシェイクスピアの戯曲です。舞台は

アテネ(アセスス)の街と近郊の森。2組の貴族の男女・ハーミア、ライサンダー、ヘレナ、ディミートリアス、織工のボトム、妖精の王オーベロン、妖精の女王タイテニア、いたずら好きの妖精パックが主な登場人物です。人間の男女たちは結婚に関する問題を抱えながら夏至の夜に妖精の集う森へ出かけていきます。その頃森では、妖精の王と女王が養子を巡って喧嘩をし、仲が悪くなってしまう。しかし、オーベロンの魔力を使った画策やパックのいたずらや活躍によって、皆が円満な結末を迎えることになります。今回の演奏会では、登場人物たちの台詞は日本語に翻訳された台本を使って語られますので、メンデルスゾーンの音楽と同時にストーリー展開も存分にお楽しみいただけると思います。どうぞご期待ください。

#### 〈ピアノ協奏曲 第1番〉

メンデルスゾーンが出版した最初の協奏曲です。作曲されたのは1831年で、メンデルスゾーン自身のピアノによりミュンヘンで初演されました。そして、この作品は、若い女性ピアニストのデルフィーネ・フォン・シャウロートに捧げられています。彼女はメンデルスゾーンより4歳年下で、彼のピアノの弟子でした。2人は恋愛関係にあったのではと考える研究者もいます。メンデルスゾーンならではの優美な旋律とドラマティックな叙情性をもった、輝きに満ちた作品です。



左から；小澤征爾音楽顧問、中嶋彰子、キャサリン・ローラー、小澤征悦、小菅 優

### みずみずしい才能が集結！豪華なゲスト奏者たち

今回の演奏会には、多数のゲスト奏者を招いています。その全員が、小澤征爾が実力を認める才能の持ち主であることは言うまでもありません。そして、その顔を眺めてみると、世界の大舞台に迎え入れられてまだそれほど時間の経っていない、フレッシュな演奏家たちが、今回水戸に集結することになると言えそうです。

まず1番にご紹介したいのが、ちらし等ではお伝えできなかった〈夏の夜の夢〉でのソプラノとメゾ・ソプラノの2人の独唱者です。

ソプラノ独唱は、現在最も大きな注目を集めている日本人歌手の中嶋彰子。彼女は15歳でオーストラリアに渡り、シドニーで音楽教育を受け、1990年に全豪オペラ・コンクールに優勝、同年シドニーとメルボルンのオペラハウスと契約しています。92年にはイタリア・ナポリのサン・カルロ劇場でプッチーニ〈ラ・ボエーム〉のムゼッタ役でヨーロッパ・デビュー。その後活動をヨーロッパに移し、インスブルック州立歌劇場（オーストリア）、ダルムシュタット・オペラ（ドイツ）と専属契約。イタリア・ベルカント・オペラばかりでなく、モーツァルト、R.シュトラウス、現代作曲家のグラスまで幅広いレパートリーの主役を務めています。

す。これまでに、スイス、イタリア、オランダ、デンマーク、フランス、スウェーデン、オーストリアの劇場に活躍の場を広げ、99年にはドイツ有数のオペラ誌『オペルンベルト』の年間最優秀新人賞に選ばれました。同年ウィーン・フォルクスオーバーの専属歌手になり、劇場のトップスターとして活躍しています。2007年にはサンディエゴ交響楽団との共演でアメリカ・デビューも果たし、着実に国際的な地歩を固めてきています。

一方のメゾ・ソプラノ独唱は、アメリカ出身のキャサリン・ローラーです。2002年シーズンにヘンデルの〈アルチーナ〉のオベルト役でサンフランシスコ劇場にてデビュー。その後、世界各地に活躍の場を広げています。グラインドボーン・フェスティバル（イギリス）ではビゼーの〈カルメン〉のタイトルロールを歌い、ニューヨーク・シティ・バレエではストラヴィンスキーの〈結婚〉の独唱を務めました。リヨン歌劇場（フランス）では、再びヘンデルの〈アルチーナ〉のオベルト役で賞賛を集めました。まさに、これから活躍の場を大きく広げようとしている新進の歌手です。

そして、〈夏の夜の夢〉の朗読を務めるのが、小澤征爾の息子の小澤征悦です。ボストン大学で演劇を学び、1998年にNHKの大河ドラマ『徳川

慶喜』でデビュー。昨年の同大河ドラマ『篤姫』では西郷隆盛役を好演。『ホテル』、『隠し剣 鬼の爪』など多数の映画にも出演。今後の活動に大きな期待が寄せられている俳優です。また、小澤征爾のオペラ・プロジェクトに数多く出演している声楽家集団・東京オペラシンガーズが同曲の合唱パートを務めます。

さらに、〈ピアノ協奏曲 第1番〉で独奏者として登場するのが小菅 優です。10歳からヨーロッパで研鑽を積み、まだ20代の若さにもかかわらず、ヨーロッパ各地の大舞台で高い評価を集めている稀有な才能の持ち主です。ちなみに、彼女は今回の演奏会に先立ち3月26日のATMアンサンブルの演奏会にも出演し、原田幸一郎や豊嶋泰嗣など練達のメンバーたちとドヴォルジャークの〈ピアノ五重奏曲 作品81〉などの室内楽を演奏することになっています。こちらも是非、ご注目ください。

水戸芸術館20周年の節目に、マエストロ小澤征爾とMCOが、フレッシュな才能を迎えてお贈りする、メンデルスゾーンの世界。どうぞお楽しみください!! 《中村》

## 入場無料！ アミーチ・カルテットが若い演奏家たちとハイドンに挑戦！

● 4/30(木)、5/7(木) MCO アカデミー ハイドン弦楽四重奏曲 全曲演奏プロジェクト vol.1

MCO アカデミーは、水戸室内管弦楽団（MCO）のメンバー、原田禎夫さん（チェロ）、川崎洋介さん（ヴァイオリン）らが結成した弦楽四重奏団、アミーチ・カルテットの面々が講師を務め、将来を有望視される若い演奏家たちが室内楽を学ぶ教育プロジェクトです。昨年からのテスト的に開始し、今年から本格的に始動することになりました。

アミーチ・カルテットは、世界トップクラスの演奏家、室内楽奏者たちが集まり、2004年に結成された弦楽四重奏団です（アミーチは、イタリア語で「友達」の意味）。そのメンバーをまずご紹介しましょう。

第1ヴァイオリンは、フェデリコ・アゴスティーニさん。何と言っても、あのイ・ムジチ合奏団の

リーダーを務めた経験を持つ練達の室内楽奏者。第2ヴァイオリンは、MCOメンバーでもある川崎洋介さん。MCO定期演奏会で全身を使ってコミュニケーションしながら演奏する川崎さんの姿が原田禎夫さんの目に止まり、抜擢されました。ヴィオラは、ジェイムズ・クライツさん。過去にアカデミカ・カルテットのヴィオラ奏者を務め、ヨーヨー・マやマリア・ジョアオ・ピリスなどと共演した経験を持っています。チェロは、MCOの中心メンバーでもある原田禎夫さん。あの東京カルテットを創設したメンバーの一人であり、約30年にわたって世界的なカルテットをリードしてきました。東京カルテットを1999年に退団後、いったん弦楽四重奏の世界から離れて

いましたが、上述の3人との素晴らしい出会いによりカルテットにカム・バックしました。

さて、今年から本格始動するMCOアカデミーのサブタイトルは、「ハイドン弦楽四重奏曲全曲演奏プロジェクト」。80曲以上残されているハイドンの弦楽四重奏曲は、室内楽をめざす若い奏者たちがまず学ばなければならない「基本」です。その奥深く、楽しい世界を、アカデミーの生徒たちだけではなく、聴衆の皆様にも体験していただくこと、特別に入場無料で公開することになりました。

4月30日は、アミーチ・カルテットのみによる演奏。講師の先生たちによる、いわば「模範演奏」の会です。そして5月7日は、生徒のアンサ



アミーチ・カルテット

ンプルにアミーチのメンバーが1人ずつ入っての演奏。このアカデミーの大きな特徴は、生徒たち4人のカルテットだけではなく、「生徒3人+アミーチのメンバー1人」という構成のカルテットも作り、講師が生徒の中に入って実際にアンサンブルをしながら室内楽を教えていくことです。5月7日は、その形で4つのカルテットが登場し、1曲ずつ演奏する予定です。

開演時刻、曲目など詳細は、決定し次第、水戸芸術館ホームページもしくは担当者のブログにて公表いたします。どうぞお楽しみに！《関根》



高山三智子

## 『水戸室内管弦楽団と巡る ヨーロッパ音楽紀行』

いよいよ発刊！

昨年5月から6月にかけて行われた水戸室内管弦楽団第3回ヨーロッパ公演は、小澤征爾音楽顧問が急病のため、指揮者なしで敢行されました。その模様をドキュメンタリータッチでとらえた“音楽の旅人”の本、『水戸室内管弦楽団と巡る ヨーロッパ音楽紀行』が音楽之友社から発刊されます(定価1,500円+税/3月11日(水)発刊予定)。さまざまな困難と障害を乗り越えて大成功をおさめ、“MCOここにあり”とヨーロッパで称えられた音楽的成果、訪れた街の今日の風景、その街の歴史と音楽を、旅人の目によせて、取材班が記録したものです。

多角的な視点からとらえた、豊富な写真とレポートによる“生きた”ヨーロッパ音楽紀行として、楽しく読んでいただければと思います。

〈本の内容〉

- 吉田秀和 水戸芸術館館長インタビュー
- 公演ツアーレポート(文=広瀬大介)
- 各地の新聞評
- 各都市の「街と音楽」(文=矢澤孝樹)
- 現地在住日本人に聞く(取材・文=藤枝智昭)
- ツアーを終えて(楽団員、ソリストのコメント) ほか

## SELF

## PORTRAIT

ヤコフ・フリエールに師事した水戸出身のピアニストによる渾身の演奏会。ベートーヴェン、リスト、プロコフィエフ作品などをお楽しみいただきます。

### ■ 4/11(土) 高山三智子 ピアノ・リサイタル

人間は、言葉によって、いろいろな状況を感じ取ります。でも、性別・環境・年代・人柄・人種などの違いから、みんな異なった反応を示します。

“はじめに言葉ありき”で、ずっと人間はそれによって生きてきましたが、人それぞれ同じ言葉でも感じる意味合いは違って、話し手と聞き手が違う思いを持って誤解されてしまう事が沢山あります。言葉は、何かはっきりとした形・大きさ・重さがあるように思っていますが、人は言葉も音楽と同じに、イメージで、感じて話をしているのではないのかと、この頃思う

ようになりました。

「ピアノのリサイタルを聴きにきて下さい」とお願いすると「音楽は分からないから」と言われます。音楽は分かるものではなく、感じるものなのです。…自然の中に入ったら爽やかな緑の風を感じた。…あの家からいつもきれいなピアノの音がする。どんな素敵な人が演奏しているのだろう!…「あそこのレストランの前を通ると、いつも美味しそう匂いが。そして焼きたてのパンの柔らかさ、その幸福感を思い出してしまう。」…「あんな美しい人を見た事が無い。輝いていて、どこを見たら良いのか分からなくなる程だった。」…等々、五感が自然に動いて、心が穏やかなら音楽も心が受け入れてくれます。もちろん、好き嫌いがあるということが大事で、「みんなが良くても自分はイヤ」、それで良いのです。周りと同じでなければという不安感が、息を詰めて身体をコチコチに緊張させて、演奏が終わるとホッと原因になってしまうのです。クラシック音楽は確かに、聴く場合でも、何も訓練しなくてもよいとは言えないところがあると思います。何しろ異国の文化ですから。でも気に

入るか気に入らないかは人間ならだれでも持っている感情でしょう! それに分かる分からないかはいらないと思います。だれでも全くの素人で、何も分からないところから始まるのです。1歩踏み出す事が大切です。そこにどんな世界があなたを待っているのか? 驚きと感動と喜びが待っているかもしれません。

私の演奏する作曲家達は、もうこの世に存在しません、その心をくみ取り、残された楽譜の中に時代背景や国民性をも注ぎ入れ、自らの身体を通して生き返らせ、聴き手に伝えるのがピアニストの役目。私が貧しいイメージと教養をもって、作曲家が世の中に残らないような演奏をしてしまうかもしれません。何百年も生命を持ち続けている曲を跡絶えさせる事がないように、演奏会後、だれかさんの心に明るい楽しい気持ちでブチブチと沸き、なんとなく夜桜の道を散歩していたい気持ちになって頂けたら、私の音楽会は大成功! 万歳です。

高山三智子

## 最近の公演から

JANUARY  
FEBRUARY



1



2



3



4



5



6

### ニュー・イヤー・コンサート2009 (1月5日)

「うたの翼に」をテーマに、名曲を通じて「うた」の心を描いた2009年のニュー・イヤー・コンサート。専属楽団メンバーと林 美智子さん、吉野直子さん、椎名雄一郎さんら豪華ゲスト、そしてNHKアナウンサー山本志保さんの司会でお届けした3時間、お楽しみいただけましたでしょうか。曲目は以下の通り。J.S.バッハ:カンタータ(心と口と行ないと生活で) BWV147から コラール“主よ、人の望みの喜びよ”/ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調 作品64の5 Hob.III 63(ひばり)から第1楽章 アレグロ・モデラート/ブランドル(クライスラー編曲):オールド・リフレイン/シマノフスキ(コハンスキ編曲):ロクサーナの歌/チャイコフスキー:〈なつかしい土地の思い出〉作品42から第3曲メロディ/ポッテシーニ:エレジー 二長調/カタロニア民謡(カザルス編曲):鳥の歌/ガーシュイン(ハイフェッツ編曲):歌劇(ポーギーとベス)から“ブルースのテンポで”/メンデルスゾーン:(無言歌 第5巻) 作品62から 第6曲“春の歌”/メンデルスゾーン:(6つの歌曲) 作品34から 第2曲“歌の翼に”/ドヴォルジャーク:(ジプシーの歌) 作品55 B.104 第4曲“わが母の教え給いし歌”/サン＝サーンス:歌劇(サムソンとデリラ) 作品47から“あなたの声に心は開く”/J.S.バッハ:コラール(暁の星はいと麗しきかな) BWV739/ドビュッシー:フルート、ヴィオラ、ハーブのためのソナタ/山田耕筰:赤とんぼ/武満 徹(野平一郎 編曲):小さな空/武満 徹(野平多美 編曲):小さな部屋で/同:翼/武満 徹:うたうだけ/グリーグ:組曲(ホルベアの時代から) 作品40から“エア”/レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲から“シチリアーナとパッサカリア”。詳しい出演者等の情報については担当者ブログ<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/>内2009年1月6日の日記をどうぞ。本演奏会はNHK茨城県域デジタル放送で生中継され、また1月24日未明のNHK第一放送「ラジオ深夜便」でも抜粋放送されました。《矢澤》

アンケートから ● 歌!! 音楽は人を幸せにするものですね。演奏者の皆様に感謝!! (無記名の女性の方) ● ニューイヤーに感激で胸がいっぱいです。満ち満ちた温かい気持ちです (無記名の方) ● アナウンサー山本さんの気づかいがとても心地良い (無記名の方)

### 高校生音楽講座 第2期 第6回(1月16日)

第2期の最終回は「即興——楽譜を超えて」。クラシック音楽は、「楽譜通り」が原則なのか? という問いかけからはじまり、バロック時代まであたりまえに行われてきた即興演奏の習慣、古典派以降の音楽における、作品と「即興」との関係、そして20世紀において即興を重視する芸術「ジャズ」が生まれたことについての考察を行った。それは、即興と楽譜との関係を問い直す演奏会「SAXOPHONES MEET KEYBOARDS」へのイントロダクションであり、即興の意味が大きく変化しつつあった時代を生きたモーツァルトをテーマとした「モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会」のサブテキストでもあった。そして第1期第1回「楽譜が違うと、演奏も違う?」で考えたことを、視点を変えて再考察

したことになる。終了後、全出席した学生さんを表彰。講座の詳しい内容については<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/>「高校生音楽講座2008」の項をご覧ください。《矢澤》

### モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第3回】演奏とお話:野平一郎(1月23日)

1年に2回ずつ、3年・全6回をかけて、モーツァルトのピアノ・ソナタ全18曲を年代順に聴いていくという本企画の第2年度が始まった。【第3回】は、モーツァルトが故郷ザルツブルクに別れを告げ、ウィーンに移って間もない頃(1783年頃)のソナタ(K.330とK.331(トルコ行進曲付き))と、4手連弾作品(アンダンテと変奏曲K.501とソナタK.497)を中心に聴いた。4手作品の共演には東 誠三さんが登場し、野平さんと実に息の合った、絶妙なアンサンブルを聴かせてくれた。野平さんはいつもながら、演奏だけではなく、お話にも大活躍。モーツァルトが姉ナンネルと連弾した話や、当時のウィーンが敵国トルコの軍楽隊の音楽に魅了されていたことなど、実に楽しく有意義なナビゲーションをしてくださった。アンコールは、(4手のためのソナタ 八長調 K.521)から第1楽章。《関根》

アンケートから ● 期待に違わず、いや、期待以上の演奏会でした。特に連弾は見事でした。(那珂市:Y.T.さん) ● 東さんとの連弾もとても素晴らしく、まるで対話をしているようでした。毎回、小学生の娘も一緒に聴かせていただいておりますが、野平さんのお話がついているので、曲の背景が少しでも分かって、今までと違った感じ方をすることができそうです。(水戸市:Y.K.さん) ● 4手連弾を見聞き出来るのは幸運である。手の動きを気にしていて、耳の方が専念できなかったかも知れないけれど。(石岡市:N.I.さん) ● (4手のためのソナタ)の第2楽章が、とても優しい響きがして聴きほれました。(ひたちなか市:S.Y.さん)

### 井上 修 ピアノ・リサイタル (1月25日)

「茨城の演奏家による演奏会企画」2006年に続く2度目の出演となる井上 修さん。今回は、井上さんの愛するロシア・ピアノ音楽でまとめられた、個性豊かなプログラム。グリムカを5曲、キュー:(アルジャントーにて)、スクリャービン:ソナタ第5番、ラフマニノフの前奏曲10曲。特にグリムカとキューは、実演で聴く機会がめったにない作品。井上さんは、繊細かつロマンティズムあふれる演奏で、旋律美にあふれたこれら秘曲の魅力を明らかにした。一転、スクリャービンでは悪魔的な法悦の世界へ。休憩後のラフマニノフではロシア・ピアノ音楽の粋を満喫。アンコールのルビンシュタイン(ハ調のメロディ)まで、コンサートホールはロシア・ピアノ音楽の世界に染め上げられた。意欲に満ちたプログラムをみごとに成功させた井上さん。これからも、新たな世界を積極的に開拓されていくことだろう。《矢澤》

アンケートから ● ロシアのピアニストの曲はじっくりと聴くのは初めてでとても新鮮に感じました。ずっと待っていたリサイタルに来て、とてもうれしかったです(大洗町:H.T.さん) ● 感情豊かで、曲ごとに色々な風景が見える素敵な演奏でした(水

1~4. ニュー・イヤー・コンサート2009

5~6. モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第3回】



1



2



3



4



5



6



7



8



9

戸市:H.M.さん) ●多彩な音色に魅了されました。グリーンカ、キューとなかなか生で演奏に出会う事が出来ない作品のプログラムもあり、全曲、大変に素敵で涙が出ました(小美玉市:A.O.さん)

### 中学生のための音楽鑑賞会

(1月28、29、30日)

水戸市立中学校全16校と茨城大学附属中学校、茨城中学校、水戸英宏中学校の1年生、およそ2,500人をホールに招いて開催した鑑賞会。出演は近年の水戸室内管弦楽団の演奏会でお馴染みのデイヴィッド・ヘルツォークさん。そして、彼が信頼する竹村淳司さん(ホルン)、市川和彦さん(トランペット)、栗田雅勝さん(トロンボーン)、佐藤和彦さん(チューバ)という全員都内のプロ・オーケストラに所属する金管奏者たちとピアニストの沢田千秋さん。楽器や曲目紹介などのトークを挟みながら、各楽器の独奏曲や金管五重奏曲などが披露された。また、終演後、希望者はエントランスホールでパイプ・オルガンによるバッハの〈小フーガ ト短調 BWV578〉の演奏を鑑賞した。オルガン演奏は三原麻里。《中村》中学生のアンケートから●トランペットやホルンなどの変った演奏のしかたが分かり、おもしろかった。音楽に対して感動する心をもつことは大切だと思った。(千波中)●トロンボーンのグリッサンドが面白かった。リズムとテンポが良くて好みの曲だった。信じられないほど難しい曲なのに、すごいなと思った。見ているうちに急にトロンボーンがやりたくなった。これがプロかー、と思った。(笠原中)●私は吹奏楽部に入っているので、とても良い参考になりました。どの音楽家の方たちも、とても気持ちの良い音楽を私たちに届けてくださいました。(第二中)

### ちょっとお昼にクラシック8(1月30日)

上記「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ出演者、プログラムで、平日の昼間に気軽にお楽しみいただくコンサートとして開催しているのが「ちょっとお昼にクラシック」シリーズです。トランペットの市川さんの名司会も会場を沸かせました。《中村》アンケートから●金管楽器の伸びやかで、空間を感じさせる音の魅力を知ることができとても良かった。曲と曲の間のお話も興味深く面白かった。(ひたちなか市:T.S.さん)●それぞれの楽器のソロ演奏と楽しいMC(お話)で、新春らしい華やかなひとときを過ごしました。(S.Y.さん)

### 平野公崇×山下洋輔×西山まりえ SAXOPHONES MEET KEYBOARDS (2月15日)

サクソフォンの名手・平野公崇、ジャズ・ピアノの巨匠・山下洋輔、チェンバロの舞姫・西山まりえ。いずれも個性派3人ががっぷり4つに組んだセッション。前半は平野公崇さんと西山まりえさんのデュオ。サクソフォン・ソロ(即興)〜C.P.E.バッハ(平野公崇編曲):〈フォリア〉、ストラーチェ(フォリア)(チェンバロ・ソロ)、カステッロ:ソナタ第2番、J.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲から5つの変奏(平野公崇編曲)。後半は平野公崇さんと山下洋輔さ

んのデュオ。サクソフォン・ソロ(即興)〜フォリアによる即興、山下洋輔:やわらぎ(ピアノ・ソロ)、山田耕筰:赤とんぼ、山下洋輔:スパイダー。アンコールは3人で。1〈フォリア+さくらさくらによる即興〉、2.J.S.バッハ/平野公崇:プレリュード。3人がそれぞれの「音楽の言葉」を極限まで駆使しての真剣勝負、白熱の語らいに会場は熱狂の渦!詳しくは担当者ブログ<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/>内「平野公崇サクソフォン」の項目をどうぞ。《矢澤》

アンケートから●リアルタイムであたに生まれる音楽を聴くよるこび(ひたちなか市:M.S.さん)●みなさん、かっこ良過ぎます!音楽の原点に触れて心がぐらぐら揺さぶられました(水戸市:M.S.さん)●SAXの響きがまるで世界最高のソプラノ歌手の歌声のよう(水戸市:J.T.さん)●平野さんのサクスは(中略)あり得ないテクニックに驚きました(水戸市:M.S.さん)●チェンバロ×Saxっておもしろい!!(中略)2人の心が通った即興(日立市:F.A.さん)●バロック以前の音楽というのは「ジャズ」だというのは確かですね(N.S.さん)●山下洋輔さんとのセッションは圧巻でした(水戸市:H.A.さん)●2度と聞けないような組み合わせの即興バトル、すごかった!(横浜市:無記名の方)●まさかの三つ巴!!とても興奮して座ってられないかと思うほどでした(無記名の方)●こういった型にとらわれない演奏会をこれからもぜひ(久慈郡:K.K.さん)●よくぞやって下さったという感じです(小山市:N.U.さん)●こんなコンサート東京でも聞けないですよ(下野市:M.K.さん)

### 中澤敏子ソプラノ・リサイタル(2月22日)

「喜寿に歌う」と題されたこのリサイタル、水戸の地で歌い続けてきた中澤敏子さんの半世紀にわたる活動が凝縮された味わい深いステージとなった。信時 潔(沙羅)、中田喜直(こどものための八つうた)と対照的な世界を描きわけた後は、寺嶋陸也さんに委嘱した新作(曝井)。万葉集にも歌われた水戸の泉を作曲者との共演を通して清冽に歌いあげる。後半はまず「私の愛する歌」と題し、小林秀雄(落葉松)、高田三郎(くちなし)など5曲を。そして最後に圧巻の橋本國彦(舞)。名手・塚田佳男のピアノが中澤さんをしっかりと支え、さらに〈沙羅〉(曝井)「私の愛する歌」では塚田さんによる詩の朗読も挿入された。アンコールは信時 潔(淡路島)と小松耕輔(母)。《矢澤》

アンケートから●歌と共に生きて今もなおすばらしい歌声に感動をいただきました(茨城町:Y.S.さん)●幸せそうな穏やかな顔で歌ってらっしゃるのが印象的でした(水戸市:Y.Y.さん)●77歳とは思えない声量、美声に関心いたしました(ひたちなか市:T.E.さん)●曝井の清さや涼しさが目に浮かぶような想い(水戸市:M.F.さん)●日本の歌のよさを感じとれるよい演奏会だった。選曲もよかった。ピアノの伴奏もとてもよかった(水戸市:S.Y.さん)

- 1~2.井上 修 ピアノ・リサイタル  
3~4.中学生のための音楽鑑賞会、ちょっとお昼にクラシック8  
5~7.平野公崇×山下洋輔×西山まりえ SAXOPHONES MEET KEYBOARDS  
8~9.中澤敏子ソプラノ・リサイタル

## information

### ■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

### ■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

### ■【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

■茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」  
毎週水曜日・朝6:50頃から約10分間  
水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

### 「茨城の名手・名歌手たち 第20回」出演者オーディション

10月17日(土)に開催予定の演奏会に先立ち、出演者オーディションを行います。詳細は、応募要項をご覧ください。

開催日:2009年6月7日(日)

応募受付期間:2009年4月28日(火)～5月12日(火)

審査対象部門:管楽器・打楽器・声楽(以上、ソロ)、  
器楽アンサンブル(2～5人まで)

資料請求方法:住所・氏名を明記し80円切手を貼った返信用封筒(定形)と、受験する楽器(声種・編成)を書いたメモを同封の上、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンター(9:30～18:00 月曜休館)にお申し出下さい。また、水戸芸術館ホームページからもダウンロードできます。

お問合わせ先:〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

水戸芸術館音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係(担当:関根・中崎)

### 茨城県の演奏家による演奏会企画を募集します。

平成22年度の茨城の演奏家による演奏会企画を下記の要領で募集いたします。

#### 【応募要項請求方法】

- ①水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター(9:30～18:00 月曜休館)にて直接入手
- ②80円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛て郵送
- ③水戸芸術館ホームページ[http://www.arttowermito.or.jp]よりダウンロード

#### 【応募対象】

個人:茨城県内の住民票をお持ちの方

団体:茨城県を中心に活動されている団体

※ただし、平成21年度の「茨城の演奏家による演奏会企画」にご出演された方は応募できません。

【受付期間】2009年5月12日(火)～6月12日(金)[当日必着]

【結果の発表】2009年9月頃

【開催時期】平成22年度(2010年4月～2011年3月)

#### 【提出資料】

- ①所定の申込用紙
- ②これまでの演奏歴を示す資料(演奏会チラシ等)
- ③住民票の写し
- ④2008年6月1日以降の演奏のデモ・テープ(またはCD、MD、DAT)
- ⑤返信用封筒1部(80円切手を貼付し、本人の住所・氏名を明記すること)

#### 【お問い合わせ】

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「演奏会企画」係  
TEL.029-227-8118/FAX.029-227-8130(担当:矢澤)

### チケット・インフォメーション

#### 〈3月28日(土)発売分〉

◎ピョートル・アンデルシェフスキ ピアノ・リサイタル

5/31(日)16:00開演 料金(全席指定):¥4,000

◎吉野直子(ハープ) & クレメンス・ハーゲン(チェロ) デュオ・リサイタル

6/17(水)19:00開演 料金(全席指定):¥3,000

◎高橋悠治の肖像

7/18(土)18:00開演 料金(全席指定):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,000

#### 〈3月29日(日)発売分〉

◎水戸室内管弦楽団第76回定期演奏会

7/4(土)18:30開演、7/5(日)14:00開演

料金(全席指定):S席¥8,000 A席¥6,500 B席¥5,000

※水戸室内管弦楽団第76回定期演奏会には、3月25日(水)より友の会維持会員、3月26日(木)より友の会一般会員の先行電話予約がありますので、3月29日(日)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

### これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし

中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎高山三智子ピアノ・リサイタル……………4/11(土)自由席○

◎水戸室内管弦楽団第75回定期演奏会

……………4/26(日)、4/27(月)、4/28(火) 完売

※3/3(火)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な4月のスケジュール

### コンサートホール ATM

#### ■高山三智子 ピアノ・リサイタル

4/11(土)18:30開演 料金(全席自由):¥3,500

#### ■アミーチ・カルテットとMCOアカデミー受講者による

ハイドン弦楽四重奏曲全曲演奏プロジェクト vol.1

□アミーチ・カルテットによる演奏 4/30(木)

□アミーチ・カルテットと若い演奏家によるカルテット 5/7(木)

入場無料 ※時間等詳細はお問い合わせ下さい。

#### ■水戸芸術館開館20周年・水戸市市制施行120周年・水戸藩開藩400年記念事業

水戸室内管弦楽団 第75回定期演奏会

～メンデルスゾーン生誕200年を記念して～

4/26(日)、4/27(月)、4/28(火)各日 18:30開演

料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

### エントランスホール

#### ■パイプオルガンプロムナード・コンサート

4月:4日(土)、5日(日)、12日(日)、18日(土)

開演時間:12:00/13:30(2回公演)入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

### ACM劇場

#### ■野村万作抄17 『泣尼』『釣針』

4/18(土)18:30開演 料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000

### 現代美術センター

#### ■ツェ・スーメイ

2/7(土)～5/10(日)9:30～18:00(入場は17:30まで) 休館日:月曜日

料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

## 茨城の主な4月の演奏会 ※有料公演のみ

#### ◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■武蔵野音楽大学同窓会茨城支部第37回定期演奏会

4/26(日)14:00開演

#### ◆ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122

■MOZARTIADÉ 酒井 淳(バロックチェロ)・酒井佳奈子(水戸市出身・旧姓:

土屋/フォルテピアノ)デュオ・リサイタル

4/24(金)18:30開演 (問)土屋/029(247)6176

#### ◆日立シビックセンター TEL/0294(24)7711

■日立シビックセンター音楽シリーズ2009

第19回ひたち出身者によるコンサート「音楽の園」 4/5(日)14:00開演

■日立シビックセンター音楽シリーズ2009[合唱コンサート2009]

4/12(日)15:00開演

#### ◆ギター文化館 TEL/0299(46)2457

■國松竜次 ギターリサイタル 4/18(土)18:00開演

#### ◆ノバホール TEL/029(852)5881

■つくばオペラフィオーレ20周年記念公演 コジ・ファン・トゥッテ

4/19(日)15:00開演

■つくば学園都市オーケストラ 第43回定期演奏会 4/26(日)14:00開演

水戸芸術館音楽紙「ヴィエヴォ」 2009年4月発行 第140号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail[ankmr@arttowermito.or.jp] URL[http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…

5月の風と共に、名手たちが到来!